

ドイツ・スウェーデン視察

川崎市議会議員 いわくま ちひろ

民進みらい川崎市議団
連載No.89

11月6日から約1週間、ドイツ・スウェーデンを視察してきました。
市議の海外視察の詳細については、4年に1度、議会承認を経た後に派遣されること、旅費は1議員あたり80万円(航空券代・宿泊費・食事代・添乗員費・通訳代・現地専門家への謝礼・手数料・諸税など)など、詳細は5月号のコラムでお伝えしました。

今回、フランクフルトでは、まちづくりの観点から都市計画と交通インフラ、ベルリンでは、政治・主権者教育・外国人施策、ヨーテボリでは、地方自治制度・保育園・公立高校・障害者施設・成人教育訓練所・高齢者施設など福祉や教育を中心に学んできました。

印象に残ったのが、私が1年生議員の頃から市議会で提言している**シティズンシップ教育(公民教育)**と深い関わりを持つ**ドイツ・スウェーデンの政治・主権者教育**でした。

ドイツでは、ナチズムや冷戦、ベルリンの壁崩壊といった過去の歴史的背景から戦後民主主義を守り、発展させていくために政治教育が積極的に行われています。また、スウェーデンは、選挙における投票率が常に80%近く上るなど高投票率の国ですが、どのような民主主義教育を学校教育現場で実施しているのか、といった観点から政策調査活動を行いました。

日本では、「政治的中立性」の名の下に、教員が自らの意見や考えを述べることはばかられます。結果として、政治・主権者教育から距離を取る傾向も見受けられます。しかし、ドイツやスウェーデンでは、「政治的中立性」は求められるものの、ひとつの社会的課題について多様な意見を出し合い、議論し、そして自ら考える力を養うとともに他者の価値観を尊重するような教育がなされていました。また、マスコミ等の一方的な情報や物の見方に迎合するのではなく、物事を多面的に見ることができる**クリティカル・シンキング(批評・批判的な考え方)**の重要性が説かれていました。

個人的には、視察中、ヨーテボリ市広報の方から取材を受けたり、現地通訳のサポートをするなど、これまで培ってきた英語力についても活用することができました。

4年前の視察後には、子どもの虐待防止に繋がる議員条例を策定しましたが、今回も本市施策にしっかりと還元できるよう努めて参ります。

公式の海外視察報告書閲覧開始日は、1月中旬からになります。市議会ホームページ等でご覧頂きたいと思います。



ドイツ政治教育センターで学ぶ



ドイツ国会議員団との会談



ヨーテボリ市長表敬訪問



日本語を学んでいる高校生との意見交換



市広報視察についてインタビューを受ける



川崎市議会議員
いわくま 千尋(ちひろ)